

資料3-2

1. 大会概要

- 正式名称: 「東京マラソン2015」 兼世界陸上競技選手権大会
(2015/北京)男子マラソン代表選手選考競技会
(2007年が初回で今回で9回目)
- 日時: 2月22日(日) 午前9時10分 スタート
- 規模: 約3万6千人のランナー
(うち約5千人※が外国人ランナー)
- 主催: 一般財団法人東京マラソン財団

フィニッシュ(手荷物返却スペース)
東京ビッグサイト



※ 台湾1367人、アメリカ708人、中国510人、香港476人、イギリス295人など88の国・地域から参加

2. 翻訳アプリの活用

- 翻訳アプリ「VoiceTra4U」の使用方法を事前説明会でボランティアに説明。各自のスマートフォンにダウンロードし、外国人参加者等との会話の必要な場面で翻訳アプリを実験的に使用。

※ ボランティア「Team Smile」: 大会中、ランナーへの給水・給食、コース(沿道)の整理、手荷物預かり・返却等に約1万人で対応。(うち約250名は、東京外語大の学生等を中心に構成された多言語ボランティア(英・中・韓等))

- フィニッシュエリアの手荷物返却スペース(東京ビッグサイト)にて、外国人ランナーに対応するボランティア等を知事が視察し、翻訳アプリを使用した感想等を聴取。

知事視察: ボランティア(左)
と外国人ランナー(右)



主な会話例

- ・参加者は何人ですか。
- ・3万6千人のランナーが走ります。
- ・今日のマラソンは誰が優勝するでしょうか。
- ・バナナは一本ずつ持って行ってください。
- ・救護所はどこですか。
- ・東京マラソンはどうでしたか。

ボランティア(左)による
VoiceTra4U活用状況



3. 翻訳アプリを利用したボランティアの感想 (一部)

<評価するもの>

- ・とても便利なツールである。
- ・外国人とコミュニケーションできて嬉しかった。
- ・翻訳の精度が高い。

<課題に関するもの>

- ・周囲が騒がしいと音が聞こえにくい。
- ・即答を要する場面では利用できない。
- ・医療などの専門的分野の翻訳は難しい。



知事と総務省 武井総括審議官
(中央)、NICT益子理事(左)の面談

2015東京国際ユース(U-14)サッカー大会における翻訳アプリの活用

1. 大会概要

- ・ 正式名称: 2015東京国際ユース(U-14)サッカー大会
- ・ 日時: 2015年5月1日(金)～4日(月・祝)
- ・ 規模: 14都市、16チーム、約320名の監督・コーチ、選手等が参加。
海外からは北京、ベルリン、カイロ、ジャカルタ、モスクワ、ニュー・サウス・ウェールズ(オーストラリア)、ソウル、サンパウロ、ブエノスアイレスから9チームが参加。
- ・ 主催: 東京都、公益財団法人東京都スポーツ文化事業団、公益財団法人東京都サッカー協会

2. 翻訳アプリの活用

- ジャカルタチームと東京都市大学等々力中学校との交流(30日(木))
ジャカルタチームが東京都市大学等々力中学校を訪問した際に、選手と日本人生徒が翻訳アプリ「VoiceTra4U」を用いて1対1のコミュニケーションを実施。
- 選手交流会及び送別会(30日(木)、1日(金)、2日(土)及び4日(月・祝))
選手等の相互交流において「VoiceTra4U」を活用。

3. 生徒・選手の感想

<評価するもの>

- ・ アプリを使うことで会話が進んだ。
- ・ 言いたいことが通じてすごいと思った。
- ・ 今後も外国人が来たときに使ってみたい。

<課題に関するもの>

- ・ 専門用語(サッカー用語)の翻訳が難しい。
- ・ 固有名詞(サッカーチーム名)の翻訳が難しい。
- ・ 訳してもらう文を考えるのに苦労した。

4. 都の対応

- 日本人生徒及び各チーム選手の感想を取りまとめ、総務省へ提供するとともに、今回の結果を踏まえ、2020年大会開催都市として期待する技術開発の方向性などについて要望。
- 引き続き総務省及び区市町村等と連携し、実証機会の拡大を図る。



ジャカルタチームと等々力中学校サッカー部生徒との交流会



オーストラリアチームとFC東京ユースチームの会話



モスクワチームとサンパウロチームの会話(ロシア語⇄ポルトガル語(ブラジル))

選手達の主な会話

- ・ ポジションはどこですか。
- ・ 靴を交換しよう。
- ・ 交換したい。でもコーチの了解が必要。
- ・ 好きなサッカー選手は。
- ・ 僕の髪型はカッコいいか。
- ・ イタリアでプレイしていた。
- ・ 君は外国でプレイしたことがありますか。

※ 会話例は同行者聞き取り

1. 「多言語対応・ICT化推進フォーラム」の概要

多言語対応に取り組む全国の自治体や民間団体等を対象に、先進的事例やICTの技術動向など多言語対応に資するノウハウを提供し、2020年に向けた取組の加速を図るため開催

日 時： 平成27年7月22日(水) 13:00～17:30

場 所： 東京国際フォーラム ホールD1、D5、D7

主 催： 2020年オリンピック・パラリンピック大会に向けた多言語対応協議会(事務局：東京都)

共 催： 総務省

来場者数： 818名(全国の自治体・民間団体担当者など)

※ 舛添東京都知事、遠藤東京オリンピック・パラリンピック大臣、西銘^(にしめ)総務副大臣など出席

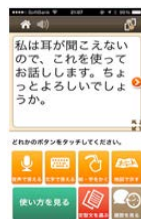
内 容： ICTの技術動向紹介(下記)、社会全体のICT化推進の取組説明、自治体・民間企業による先進的事例の紹介 など

2. 多言語対応等に関するICTの技術動向紹介

○ 多言語対応等に関するICT(約30種類)についてデモンストレーションを行い、最新の技術動向を来場者にご紹介



(翻訳アプリなど翻訳技術)



(聴覚障害者とのコミュニケーション支援アプリ)



(デジタルサイネージ)



(防災・セキュリティ対策技術)



(多言語での案内や通訳等を行うロボット)

知事・遠藤大臣・西銘副大臣による視察の様子
(聴覚障害者とのコミュニケーション支援アプリ)

知事・遠藤大臣・西銘副大臣による視察の様子
(デジタルサイネージ)

多言語案内・通訳等ロボットとのフォトセッション

車いす移動者の通過を検知する
センサーシートのデモ体験

